

教員名	内田 伸子 (UCHIDA Nobuko)
学 位	学術博士 (1990 お茶の水女子大学)
職 名	理事・副学長
URL/E-mail	http://www.hss.ocha.ac.jp/psych/devpsy/home.html/uchida@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

言語と認識の諸問題 / 言語・認知発達 / コミュニケーション力

◆主要業績

総数 (19) 件

- ・内田伸子 (編著) 『心理学—こころの不思議を解き明かす—』 (71 頁/全 344 頁) 光生館
- ・内田伸子 (編著) 『発達心理学キーワード』 (68 頁/全 287 頁) 有斐閣
- ・内田伸子 『幼児教育ゲームへの接触が幼児のコミュニケーション能力に及ぼす影響』 基盤研究(B)研究成果 (全 245 頁)

◆研究内容

21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達科学」拠点の拠点リーダーとして拠点研究を推進した。学問知と臨床知の統合をねらう本拠点では、脳科学と心の発達や研究成果の臨床・教育現場への応用をめざす研究に取り組んでいる。

◆ 17 年度の内田が取り組んだ主要テーマは以下の 3 点である

- (1) リスク社会における子どものコミュニケーション能力の発達について実験研究を行った。
- (2) 幼児の安全教育に関する社会文化的要因の影響を解明するため、子どもの危機管理・安全教育をめぐる問題を診断し、望ましい子育て方策や安全教育の臨床支援プログラムを開発中である。
- (3) テレビ・テレビゲームなどの接触が子どもの発達、特に、認知能力やコミュニケーション能力にどのような影響を及ぼすか行動学的な実験研究や調査研究を実施した。

◆教育内容

学部教育: 「発達心理学概論」、「人間と情報」の講義では、内容知識を伝えると共に、批判的思考力の育成をめざした授業方法をとっている。授業開始前 10 分間に授業内容にあわせたメッセージソングを聞かせるとともに、前回の学生のコメントや質問と内田の回答が書かれたコメント集 (1 回に B 4 版で表裏 3-4 枚程度) を配布して読んでもらう。授業終了時間 3 分前に授業が終わるようにして、3 分間に授業へのコメントや感想、質問をコメント票 (B 6 版) に記入してもらった。一斉教育では双方向学習や学生同士の互惠学習が起こりにくいという弱点を克服するのに効果的であった。

大学院教育: 大学院前期・後期課程の院生の指導に力を入れた。個人指導と論文指導ゼミを組み合わせ修士論文 (6 名) や博士論文の研究を指導 (25 名) した。教員全員が参加する「ランチトーク」ゼミでは研究指導と共に、プレゼンテーション能力を育成した。

◆特許

・子どもの発達と母子コミュニケーションの活性化: 過去 14 年間、出版社と共同で、メディアミックス教材 (子どもの創造的想像力の発達を促し、母子コミュニケーションを活性化するためのメディアミックス教材) を開発した。この教材は、モニター調査や効果測定により、よりよい教材へと改善する手法も開発したことにより、子どもたちに支持される教材を作成することができた。

・楽しんで会話しながら取り組める教材の開発: 子どもたちを惹きつける魅力的な教材としてビデオゲームソフト「ビーナ」を開発し、子どもたちに支持されている。この教材の改善のため、モニター調査により縦断的な追跡調査を行い、親子のコミュニケーションを活性化させる演出技法を確立した。

その他、複数の出版社やおもちゃ制作会社と共同で絵本や幼児教育ビデオ・ゲームソフトの開発と監修を行っている。

◆Research Pursuits

Our center advances the research for the 21st century Center of Excellence (COE)

program, “Human Development from Birth to Death” as the leader of the center. We aim to integrate basic science research with clinical experience. Our research focuses on both neuroscience and cognitive development, and we strive to bring our results into the clinics, as well as disseminate them through education.

1. Studies were conducted on the development of communication abilities in children raised in risk societies.
2. In order to elucidate how social and cultural factors affect safety education for children, studies to illuminate the problems surrounding risk management and safety education are being developed. We are also working to develop a clinical program that supports parenting in such an environment.
3. Studies were conducted in order to investigate how extended exposure to television and video games affects children's cognitive development, especially with regards to their cognitive and communicative abilities.

◆共同研究例

- ・ベネッセ：メディアミックス教材（子どもの創造的想像力の発達を促し、母子コミュニケーションを活性化するためのメディアミックス教材）を開発し、幼児3人に1人が活用中。
- ・セガトイズ：ビデオゲームソフト「ビーナ」を開発し、モニター調査を踏まえて親子のコミュニケーションを活性化する演出技法を確立した。
- ・講談社：幼児アニメ「ミッフィー」を開発。NHK『おかあさんといっしょ』で放映中。

◆将来の研究計画・研究の展望

(1)ゲームやビデオへの接触が子どもの発達にどのような影響を与えるかについて行動学的アプローチと縦断研究を組み合わせた研究を推進する。(2)子どもの危険認知の発達や危険回避方略、コミュニケーション能力の発達について脳科学と行動学的アプローチにより解明する。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・子どものメディア環境のデザイン；子どもの発達に資するメディア環境のデザインについて提言。
- ・幼児の安全教育についての総合的研究；子どもの危険認知の発達や危険回避方略の発達についての基礎的知見を踏まえて、子ども自身が自律的に安全に配慮できるようにするために環境設定や大人の教育的働きかけについて提言する。

◆受験生等へのメッセージ

◆発達心理学は人が持つ能力のすべてを扱います。そしてそれらの力の萌芽は、乳幼児期に現れるため、乳幼児を対象とする発達心理学の研究テーマには、無限の広がりがあるといっても過言ではありません。心理学だけでなく、生理学、生物学、言語学、社会学など幅広い学問と結びつきながら、今後も活発な研究が行われていくことでしょう。◆あなたは人の振る舞いをみて不思議だなんて思ったことはありませんか？なぜそんなことをするのか、どうしてこんなことが起こったのか？答えをさがすときには、まず我が身をふりかえってください。最初の被験者はあなた自身なのです。困ったときどうするか、どんな気持ちになったか、どのようにして解決策をみつけたか、我が身をふりかえり、じっくりと自己内対話を交わしてみてください。「なぜ？」の答が自ずと見えてくるでしょう。◆発達心理学は面白い。人の心の不思議を解き明かすには「発達」や「進化」の視点をもつことが必要です。自分の子ども時代を発見する旅、「発達心理学村」をいっしょに旅しませんか。わくわくするような「名所」や美しい「景観」をご案内し、感動的な「見所」へと同行させていただきます。

◆Educational Pursuits

Undergraduate education: In the lecture-based classes of "Introduction to Developmental Psychology" and "Humans and Information," there is a dual focus of training the students to understand the material, as well as fostering critical and analytical thinking skills. In the 10 minutes before the start of class, students are asked to listen to a song that encapsulates the day's lesson, as well as read over a summary of comments and questions from fellow students regarding the previous class, which are answered by Uchida. This was effective in overcoming the often unidirectional nature of lecture-based classroom education, and promoting a bidirectional flow in education by allowing the students to take part in their own learning process.

Graduate school education: Extra attention was given to graduate students just starting their research, as well as those finishing up their dissertations. In order to advance the research for their master and doctoral theses, one-on-one training was combined with seminars on research methods and "lunch talks" on the techniques of giving effective presentations.